

# 対馬文化財通信

第6号



対馬市文化財保護審議会編

〔表紙題字〕 梅 野 正 博

〔表紙写真〕 ロシア軍艦泊留地跡碑

(対馬観光物産協会より提供)

# 対馬文化財通信

第6号

対馬市文化財保護審議会編

# 目 次

## －巻頭言－

高麗仏が返還されないわけ

－ムン・ミョンデ氏主張に反論 ..... 1

□対馬藩田代領代官所副代官 ..... 2

－佐藤恒衛門「毎日記」にみる露西亜艦来泊事件

□仁位孫一郎 ..... 3

－幕末露艦事件での交渉役

□「薬研坂」悠々（ゆうゆう） ..... 4

□文化財課25年度事業の取り組み ..... 5

□博物館事情(一) ..... 6

## 高麗仏が返還されないわけ — ムン・ミョンデ氏主張に反論

対馬の仏像二軀（国指定重文で八世紀造像の銅造如来形立像―新羅仏と、県指定で十四世紀に同じくブロンズで造られた観世音菩薩坐像―高麗仏）が、不当にも韓国の窃盗団によつて盗み出され韓国にもちこまれた事件から、早くも一年が過ぎました。

ところが、去る二〇一三年三月二十九日付、韓国東亜日報によりますと、強奪の証拠はなく全部返すのが正しいとする鄭永鎬檀国大名誉教授らの意見に対して、同国美術史研究所長で東国大名誉教授のムン・ミョンデ氏は、新羅仏は強奪された根拠がないので返還すべきだが、高麗仏は強奪の根拠が相当あるので即時返還はおさえて流出経路を調査する必要がある（対馬釜山事務所訳）というのです。

このような意見を斟酌してか同国大田地裁が、原所有者の観音寺が正当な手段でこの仏像を取得したということが判明するまで返還を差し止めるという仮処分の決定をしたため現在動きが取れなくなっているようです。

面識はないものの、韓国の偉い研究者であるとお察しするムン先生の主張に対しては傾聴しなければならぬとは思いますが、どうしても同意できませんので、失礼は承知のうえ、あえて反論をさせていただきます。

- 1、まず像内結縁文には、像は浮石寺堂主が造成し永遠に奉安することを祈願するといふ内容が記録されているだけで観音寺に移安するという内容はない↓浮石寺と観音寺は無関係なのでその名があるはずがない。
  - 2、浮石寺の仏像が観音寺に正常に寄贈されたと見ることは不可能↓その通り。ある時期対馬にもたらされたあと、たまたま観音寺に安置され現在にいたったにすぎない。
  - 3、一三七〇年ごろ、倭寇に略奪されたと思われるのが正しいのでは？↓何の根拠もない。
  - 4、「略奪文化財の目録はないので、観音寺仏の略奪についても、記録を見つけないことは難しい」と認めながら、倭寇の略奪品であるかのように断言↓掠奪ありきの独断。
  - 5、「観音寺の本尊に観音菩薩像を奉安する」とある同寺の財産目録が一五二六年であり文禄の役以前なので倭寇に略奪されたと思われるしかない↓短絡的過ぎ。同じく略奪前提。
  - 6、「略奪品ということが明らかにした時」↓略奪品であることの証明はほぼ不可能。
- ◇信仰の象徴である仏像であるので、不敬の最たる行為である高麗時代の掠奪より廃仏毀釈後の李朝時代、経典と同様正当に譲り受けたとみるのが自然である。（小松勝助）

## 対馬藩田代領代官所副代官

### 佐藤恒右衛門「毎日記」にみる露西亞艦来泊事件

露艦碇泊 文久元年（一八六一）二月三日（この時実際は万延二年）ポサドニク号（三百六十人乗組）が、

尾崎浦に来航したのは申の刻でした。早期退去を巡って艦長ビリレフと対馬藩の交渉が膠着する二月二十九日には、もう一隻の露西亞蒸氣船ナイエーズニク号（百七十人乗組）も対馬に来航。今回の対馬事件の首謀者リハチヨフ東洋艦隊司令官が座乗していました。露西亞側の意図は明らかに「対馬占領」だったことは、現在「ロシア帝国外交史料館」収蔵史料によって証明されています。

結局、英国の強い抗議を受けて、露艦は八月十五日尾崎浦から退去しました（後の軍艦は十日後に退去）。対馬藩激動の幕末期、田代領代官所の副代官佐藤恒右衛門の遺した「毎日記」

「記」にも、国元で突如発生したこの国際問題に対応した姿が記録されています。

#### 露寇事件に対する田代代官所の支援

佐藤恒右衛門が田代代官所の副代官として赴いたのは嘉永七年（一八五四）二月から文久二年（一八六二）三月までです。「毎日記」（以下「日記」）は、国元対馬の動揺も反映し波乱に満ちた幕末期田代領の動きをみる事ができます。

「日記」に露西亞艦来泊に関する記事の初見は七月になってからです。

七月六日 晴天

御国元異船二付、新組・足軽・獵師・平夫等多人数御国へ渡海申付、留守家内扶持方夫役丈八其村町二而（にて）当時借替を以相渡候へ共、新組・獵師二而六十一人分何分交通之道無

#### 之被仰付（後略）

とみえ、四月、平田大江に率いられて対馬に赴いた三百余名の領民の留守家庭の支援のことを述べています。

七月十七日には、「長崎多田多より内状相達候処、同所より御役人方御国へ御越之義、江戸表より御差図申来、左之通聞役へ御達有之、来ル廿三日比（ころ）蒸氣船御乗組」とあり、この時既に蒸氣船が運用されていたことが判ります。長崎の海軍伝習所から江戸築地に移された軍艦操練所の威臨丸とみえ、また、役人の肩書きが、唐小通事・英語兼学・阿蘭陀小通詞並・魯西亞通詞、とみえ外国に対応する幕府体制の一端が窺えます。これに先立つ五月、外国奉行小栗豊後守は成果を挙げることもなく、対馬を去っています。七月のこの頃には、平田大江に率いられた対馬支援に赴いていた田代領民の帰国が始まっています。

七月廿五日 晴天

平田為之允殿、村岡相模殿より去ル十五日付御状相達候処、今般魯西亞船来泊多月滞留、追々不法之挙動有之、公辺且長崎奉行江被仰立品ニ依大江義、其元御扶持已下（いか）御領民召連一同ニ罷渡居候処、昨今平穩之振合ニ付此節庄屋以下百姓中いつ（ず）れも申付候（後略）

とあり、そして八月朔日、「：異船二付御国へ罷越候大小庄屋・町役・六十人格并（ならびに）三組之者共、昨日迄二帰郷相揃候付：」とみえます。田代領民の対馬支援は終わり、夫々に労いの給米等を受けています。が、露艦の不法碇泊・芋崎占拠は続いていました。この頃「日記」（八月十五日）には、「此度對州表江為御用外国奉行野々山丹後守始役々被差遣当表より威臨丸御船にて渡海致候筈」とみえます。

一行は九月二十日に対馬府中に到着しましたが、この時既に露艦は英国の圧力に追い出された後でした。

（斎藤弘征）

## 仁位孫一郎

### 幕末露艦事件での交渉役

私は、前号「文化財通信第五号」に「露艦芋崎占拠事件から百五十年」と題して寄稿したが、その後、総指図役に起用され交渉にあたった仁位孫一郎のことが気になって調べてみた。

奉公帳によると文政八年（一八二五）二月二十三日、当年二拾歳相成父久兵衛依願無祿二而御奉公出被仰付とある。このことから文化二年（一八〇五）に誕生していることがわかる。その後文政十三年七月二十三日亡父久兵衛跡式無相違被仰付高式百六拾石被成下、同日館主仁位久兵衛跡式館主役被仰付とある。天保五年（一八三四）八月二日御用人被仰付、天保六年五月二十日与頭飯役被仰付、同年六月二十七日於御前御加判列被蒙仰また朝鮮御用支配御文庫役被蒙仰、天保七年三月十三日田代御郡支配被蒙仰と昇進を重ねている。しかし、

天保九年二月十七日不心得之儀有之慎被仰付置候処此節慎御免御奉公被差除とあり、以後は詳細は省くが隠居、蟄居、牢居の記事が続き、奉公帳の最後の万延元年（一八六〇）十月二十日の記事には田舎牢居被仰付置候処兼々身行相慎候共相聞候付出格之以思召府内出御免被仰付とある。いわゆる天保九年の政変で弱冠三十歳の家老職、将来を期待されていた孫一郎が表舞台から追放された事実を示す。

この事件は天保九年、藩主義質が江戸上屋敷で急逝、江戸詰家老杉村但馬が藩公の遺命と偽る書面を作り、村岡近江と仁位孫一郎以下四十四名に牢居または蟄居を命じた陰謀事件で、大器と目される二人を若い芽のうちに摘んだものといわれる。

彼の墓所がどこかも調べた。対馬遺事（川本達著）で弟主

膳が長寿院に葬られていることを知り、住職に尋ねたが、御存知なかった。齋藤弘征先生に教えてもらった一角を見ても残念ながら、ここだと確かめることはできなかった。故郷嘉寿氏には大変お世話になり、色々と教えてもらっていたが、生前調査されていたものを奥様より見させてもらい、しっかりと確認できた時は、本当に嬉しかった。

一角には全部で十三の墓石があり、助之進（曾祖父）、求馬（祖父）、久兵衛（父）、孫一郎、定（宗義和の十男で養子）、和禮（孫・定の長男）、誠（曾孫・定の長女の三男）等と妻及び不明のものである。孫一郎の墓石は正面は至徳院文明良忠居士と清徳院慈明心月大姉と二つの墓碑が刻まれ、裏は仁位孫一郎平和復その横に慶応四戊年九月十二日とあった。このことから彼の死亡は六十三歳であったことがわかる。

郡方日記万延元年十二月十五日の記録に今般御誕生之

御男子様御名定様与被為附候間右之名附居候面々之者相改候様可被相触候以上とある。また、御側日記の文久元年十二月三日には今日吉辰二付定様御事仁位孫一郎御養子被仰出とあり、これらから定が誕生僅か一年の内に孫一郎の養子になつて居ることもある。実は、孫一郎には娘がいたが、天保の政変で孫一郎が御奉公を差除かれたため小川家より弟の主膳が戻つて相続している。そして嘉永六年五月二十六日主膳が罪を着せられ憤死したことから家名断絶の状態であった。

『巖原町誌』付図「（文化八年）対州接鮮旅館図」を見ると、馬場先橋付近に仁位求馬の住宅が載っている。現在まるふみ家具と駐車場辺りである。求馬は孫一郎の祖父にあたり、草場風川の『津島日記』（上）には八人の家老の内の一人として載っている。おそろく、孫一郎もここで育つたのであろう。

（早田和文）



## 「薬研坂」<sup>やげん</sup> 悠々 (ゆうゆう)

厳原町天道茂に「薬研坂」と呼ばれる通りがある。元測候所の峰から宝泉寺横を通つて厳原小学校校庭を横切る通り名である。校庭の拡張によつて以前とは変わつてきているが、これまで多くの人たちから親しまれ、厳原を去つて何十年たった人でも、薬研坂と聞けばこの坂を懐かしく想い出すのは一人や二人だけではない。それだけ身近な存在として記憶の中に刻まれている坂といつても過言ではないようだ。

しかも、折りにふれ散策して見ると、この薬研坂の周辺には古い神社跡や幕末の志士が眠る墓地が残されており、一時代の歴史の香りが色濃く漂う場所でもあることがわかる。そういう意味で、私自身薬研坂のそばに住んでいることもあつて、薬研坂

を抱くこの周辺に一種の親近感とともにこれまでと違う好奇心をわき出させてくれるところでもある。

寛正三年(一四六二)京都天竜寺の禅僧・仰之梵高(きようしほんこう)が室町將軍足利義政の命により朝鮮国に渡海し、その帰途の折に、対馬島主の要請に依じて当時島府であつた佐賀に留まり、「景德庵」という臨済宗の寺を開いて朝鮮通交の事務を司つた。その景德庵が近世になつてから府中(現厳原)に移転した場所、そこが、「薬研坂」であつた。

ととなつた。宗氏から朝鮮への歳賜船が制限され、それ以後さらに制限を強化しようとする朝鮮側の対応に、まさに対馬が苦難にあつた時代、梵高は通交の事務を専任したのである。

梵高に師事した島主貞盛の子景林宗鎮は臨済宗を学び、のち対馬西山寺を興した。現在島内の臨済宗の総録となつている格式の高い寺であるが、この寺の開山に梵高の影響は大きく、その後高の功績として残されていることでも窺い知れるところである。

求めに依じて、その両親(順叟・宗盛国と母即月大姉)の肖像に付した一文「順叟大居士即月大姉肖像贊并序」が宗氏の出自や歴史を調べる上で大きな影響があつたことなどの功績が伝わっている。

さて、正徳三年(一七一三)に府中天道茂の薬研坂に移転してきた景德庵は、当地にあつた同じ臨済宗の双景庵を景德庵と改称させ、仰之梵高和尚の香華所として再興させた。二年後、茶湯料として毎歳三石を支給している。しかしながらこの移転は、梵高和尚が亡くなつた明応三年(一四九四)から二百年余後のできごとであつた。

当時、府中景德庵近くの東丘には、朝鮮通交の外交文書を専門的に取り扱う「以酌庵」が、また真向かいの西丘国府嶽の麓には、本山である「鶴翼山西山禅寺」もあり、相互に連携した朝鮮通



交の業務が行われたであろう事が想像される。府中においても景德庵は、対馬藩にとって大事な通交事務を司る場所として位置づけられていたようである。

その景德庵であるが、享保十七年（一七三二）城下で発生した大火により二十四ヶ寺が巻込まれ、周囲の以酌庵や国分寺を始め多くの寺社とともに灰燼になり、さらに明治期には新政府の方針により寺院合併が促され、厳原にある同じ宗派の西山寺と長寿院の二寺だけを存続が認められ、その殆どが西山寺に吸収されることになった。

対馬臨済宗の祖であり、対馬中世史に影響力のあつた高僧・仰之梵高が開いた景德庵もそのひとつで、今でこそ忘れられている存在のようでもあるが、その開山の意義とともに、梵高和尚の高徳と業績がもつと明らかに、ひ

ろく理解される時代が来るのもそう遠くないはずである。

現在、厳原小学校の校庭付近にあつたと伝わる場所には、残念ながら特定する何物も残っていないが、当時の面影を追いながら栗研坂の周辺を歩いて見ると、なお一層この坂への思いを強くしているのを覚えるこの頃でもある。

ところで、府中移転後佐賀にあつた景德庵跡であるが、地元の人には通称「ケトカン」と呼ばれ、佐賀から志多賀に向かう低い谷の丘のさえにあつたと伝わっているが、府中移転とともに墓碑も移り、その周辺には新しい住宅が建ち並び、往時を偲ぶよすがさえ途絶えてしまおうとしている。

参考文献『峰町誌』・『対馬風土記十一号』

（小島武博）

## 平成二十五年年度

### 文化財課事業の取り組み

二十五年度事業を振り返ってみると、継続事業である金田城跡・矢立山古墳群・対馬藩主宗家墓所・清水山城跡・金石城跡の五つの保存整備事業に加え、博物館建設予定地である金石城の一部御台所門の発掘調査、峰町佐賀貝塚の国重要文化財指定に向けた取り組み、二十四年度繰り越し事業となつた今屋敷家老屋敷跡の発掘調査に、盗難渡来仏発見に伴う早期返還行動などが主な事業と言えるでしょう。

また、前述した事業のほか、経典類の修復・古文書図録整理や、天然記念物ヒトバタゴの保護対策のための害獣防除柵の設置等

を実施したところです。今後、五つの国指定史跡の保存整備に限らず、その他の史跡・遺物等の整備・保存とその周辺の環境整備にまで力を入れることで、市民の皆さまへ文化財保護の啓発を図っていきたくと考えています。

また、先述した盗難に遭いました渡来仏の早期返還要求の活動は言うに及ばず、今後二度とこのような事件が起きないよう、防犯対策の徹底を図って行く予定です。

文化財課職員・博物館準備室職員含め、六名のスタッフで、市民の皆さまに協力をいただきながら、文化財の整備・保護に努めていきたいと思っております。

（文化財課）

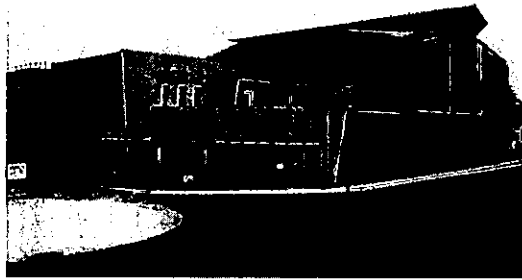
# 博物館事情 (二)

世界中には数多くの博物館があります。一週刊「世界の博物館」で紹介してある一生に一度は行ってみたいと思わせる博物館もあれば、博物館と言っても、実際は千差万別。企業ものから自治体、そして個人経営のもの。入館料も無料から数千円のもの。規模に至ってはビルの一室から中世の城跡のものまで、どれ一つとっても、同じものはありません。全国各地には、種々その土地ならではの変わった博物館もあります。現在日本には、五七〇〇の博物館(そのうち類似施設が四五〇〇)があります。第二世界大戦後、博物館数は一貫として増加にあり、それはこの「類似施設」の増加に負っています。また館種別で見れば、歴史系博物館の比率が圧倒的に多く、約六〇%を占めています。

対馬市計画の博物館建設に携わることになり、今まで以上にいろいろな博物館に出会い真つただ中、そのいくつかををご紹介します。旅先でぜひ訪れてみませんか。

## 春日市奴国の丘歴史資料館 (福岡県春日市)

ご存じ、三世紀の倭国の中の一國で、倭人伝の伊都國に続き登場する場所が奴國です。現在の福岡県にあると言われています。光武帝の賜った印が「漢委奴國王」の金印であることはあまりにも有名です。その「春日市奴国の丘歴史資料館」は、奴国王とその一族の墓とされている国指定史跡岡本遺跡を歴史公園として整備を行った場所に建てられ、平成一〇年に開館した(類似)博物館です。建設財源を自治債中心に活用したので、その性格上、建物の構造が変則的になっていきます。市営の運営で、市文化財課の事務所を兼ねています。



奴国の丘歴史資料館外観

おおよそその入館者数は、年一万五千人ほど。国指定史跡の隣接地ですが、敷地は埋蔵文化財包蔵地ではありません。展示は、八割を弥生に特化したものになっていきます。コミュニティースクール事業が盛んで、イベント(奴国フェスタ)関係にも力を入れていきます。博物館ですが、実質文化財課なのでその雰囲気は余り感じられないところですが、おそらく建設当時は、生涯学習センター的なイメージだったのかもしれない。南福岡駅から歩いて十五分くらい、表示看板がありますが見落とさなければスムーズに着きます。

## 県立佐賀城本丸歴史館 (佐賀県佐賀市)

十代藩主鍋島直正が再建した佐賀城本丸御殿を、当時の絵図や古写真を基に一部を復元し、博物館となっています。元は古文書館の予定で進んでいた計画が敷地内の発掘調査で佐賀城跡の遺構が大規模に見え、計画は撤回、県指定史跡に登録後再計画がなされ、平成十六年に開館しました。地下の遺構は完全に保護される形をとり、全て木造建築瓦葺き平屋建ての構造です。そのため、展示物のほ



佐賀城本丸歴史館ロビー

とんどもはレプリカで、別途造られ、企画展等を開催しているのです。幕末から明治に特化した(登録)博物館、佐賀県直営の運営、入館者年間十七万人、入館料無料(佐賀県立は、科学館をのぞき全て無料)です。建物の外御書院は三百二十畳という圧巻の広さです。建物の構造上、テーマパーク的な施設の感じがします。貸館も可能で、長崎歴史のよう、かなり技量が高いと自慢の寸劇有り、イベント目白押し、Facebook いいねも500以上!

私は百円寄進しました。  
対馬市博物館準備室 宮脇 好和

---

対馬文化財通信第6号

発行日 平成26年(2014) 2月3日

編集 対馬市文化財保護審議会

発行者 対馬市教育委員会文化財課

長崎県対馬市美津島町雑知甲 1287 番地 1

TEL 0920-54-2341

FAX 0920-54-4046

---

